

立野ダム建設事業の検証に係る検討
「貯水池周辺地すべり等に関する資料」

平成 24 年 10 月

国土交通省 九州地方整備局

はじめに

「貯水池周辺地すべり等に関する資料」は、平成 22 年 9 月から臨時的にかつ一斉に行うダム事業の再評価を実施するに当たり、これまでに九州地方整備局が行ってきた調査及び検討結果を現時点においてとりまとめたものである。

1. 貯水池周辺地すべり等の調査の方法

貯水池周辺の地すべりについては、「河川砂防技術基準」及び「貯水池周辺の地すべり調査と対策に関する技術指針（案）」に基づき、貯水池周辺の地すべり等^{※1}の分布を明らかにし、この中から精査が必要な地すべり等を抽出することを目的として行う概査、地すべり等の機構解析、安定解析、対策工の必要性の評価及び対策工の計画等の資料を得ることを目的として行う精査等の調査を行い、必要に応じて地すべり防止工等を設けることとしている。

概査は、資料調査、空中写真・地形図等の判読による地すべり地形等^{※2}予察図の作成及び地形地質踏査等の結果を加えた地すべり等分布図の作成等により段階的に行うこととしている。

精査は、概査で抽出された地すべり等及びその周辺について、必要な精度・縮尺の地形図の作成並びにボーリング調査、地下水調査、移動量調査等により行うこととしている。

精査の結果得られた対策工の必要性の評価及び対策工の計画等の資料に基づき、必要に応じて地すべり防止工等の対策工の計画・設計・施工を行う。

※1：地すべり等：地すべり並びに崖錐等の未固結堆積物の大規模な斜面変動現象及びその現象が発生する場所。

※2：地すべり地形等：過去の地すべり等の変動の特徴を備えた地形。

2. 調査の結果

立野ダム貯水池周辺について、航空レーザー測量による地形判読により作成した地すべり地形等予察図を図-1に示す。地形判読の結果、サーチャージ水位（EL. 276m）以下に水没し、かつ、凹状の緩斜面地形などの地すべりの存在を示すような地形の分布は認められなかった。ただし、層厚がやや厚いと推定される崖錐斜面が6箇所抽出された。（表-1）

表-1 貯水池周辺の崖錐斜面

地区名			規模 ^{※1}		地形要素 ^{※2}					水没割合（%） ※3	保全対象
			長さ（m）	幅（m）	滑落崖	遷急線	遷緩線	山腹緩斜面 平坦面	尾根地形の ずれ		
①	WL1	上流	62.5	42.5	×	○	×	○	×	100.0%	国立公園第3種特別地域
		下流	47.5	50.0	×	×	×	○	×	100.0%	国立公園第3種特別地域
②	WR1		67.5	77.5	×	×	×	○	×	79.5%	
③	BL1		52.5	47.5	×	×	×	○	×	48.3%	橋梁林道（探勝道）
④	BL2	上流	110.0	85.0	×	×	×	○	×	2.6%	林道（探勝道）
		下流	105.0	67.5	×	○	○	○	×	34.4%	林道（探勝道）
⑤	BR1		60.0	77.5	×	×	×	○	×	60.5%	林道（探勝道）
⑥	BR2		45.0	175.0	×	○	○	○	×	42.9%	林道（探勝道）

※1：規模は平面形状の計測値である。

※2：○：分布が認められる。
×：分布は認められない。

※3：サーチャージ水位(EL.276m)に対する水没の割合である。

概査によって抽出した崖錐斜面については、今後精査を行うこととしており、必要に応じて地形状況等を考慮し対策工を実施する。

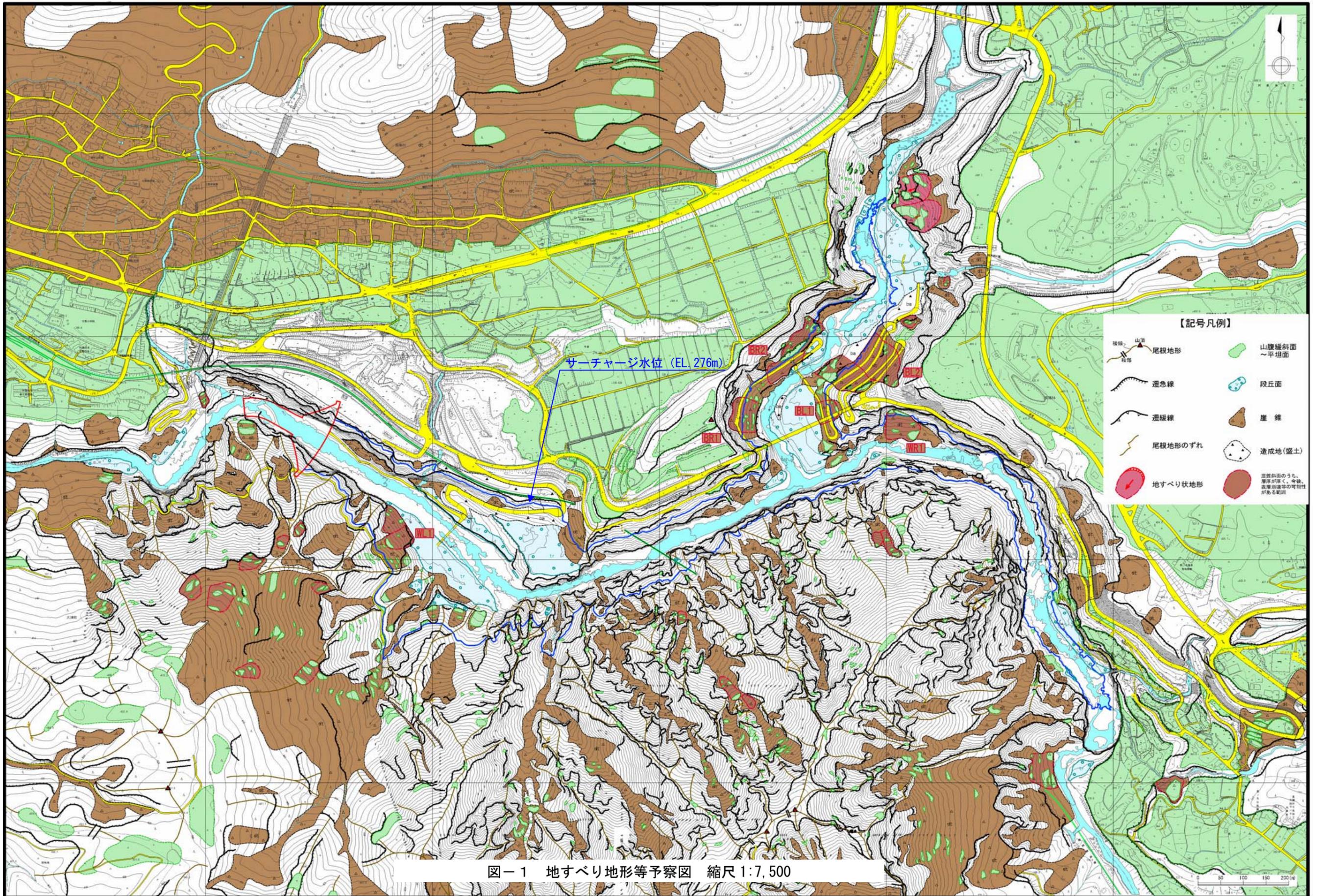


図-1 地すべり地形等予察図 縮尺 1:7,500